

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和2年1月9日

協議会名： 市原市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
小湊鉄道(株)	①市原鶴舞BT～湯原～里見駅	今年度においても、計画どおり事業を実施するとともに、小中一貫教育校の通学に対応した運行ダイヤ・運行ルート改善検討等を適宜行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 平成25年4月に加茂地区の5校を統合して開校した小中一貫教育校の児童生徒の通学手段の確保に寄与した。 目標「1日の平均利用者40人」に対して、「1日平均利用者51.08人」であった。	今後も、小中一貫教育校の通学に対応したダイヤ編成の検討や時刻表・バス路線マップの配布等により、利用者の利便性向上を図っていく。
	②市原鶴舞BT～山口駒込～里見駅				
	③市原鶴舞BT～高滝駅～里見駅				
小湊タクシー(株)	①戸田地区	平成28年度から補助対象事業である。 今年度においても、計画どおり事業を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 交通空白地域である両地区において、新たな交通手段を創出することにより、高齢化社会における交通弱者等の生活交通の確保を図った。 戸田地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.20人/回」に対して、「1.20人/回」であった。 養老地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.40人/回」に対して「1.44人/回」であった。 市津地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.25人/回」に対して、「1.14人/回」であった。	今後も、高齢者を中心とした交通弱者に対応したダイヤ編成等を検討していく。 定期的に運営会議を開催し、運行状況や収支状況の検証することで、運行の改善を図っていく。 また、アンケート調査を実施等を行うことで、広く利用者の要望を反映させ、利便性の向上を図っていく。
	②養老地区				
(有)潤井戸タクシー	③市津地区	平成30年度から補助対象事業である。 今年度においても、計画どおり事業を実施した。			

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。